

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名 北海道

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	帯広市立帯広小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	1	1	1	2	1	9	
児童数	46	31	28	27	23	38	8	201	

研究の概要

1. 研究主題

自ら進んで考え、心豊かに表現する子どもの育成
～豊かな学力を身につける、『ひらかれた学習』へのアプローチ～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～6年生・国語

これからの時代に求められる国語力を身に付けるため、考える力、感じる力、想像する力、表す力(音声言語表現力)に加え、その基盤となる国語の基礎の定着をねらい全学年で実施する。

1～6年生・算数

確かな学力の向上を図るため、子ども一人一人の理解や習熟の程度に応じる指導方法・指導体制の工夫や教材開発を全学年で実施する。これは、論理的な思考力や表現力を育てることとも関連する。

3～6年生・総合

基礎・基本の定着を検証する場、表現力を育成する場として、学校のこれまでの研究成果を継承するために実施する。

1～6年生・道徳

「表現力の育成」と「基礎・基本の定着と向上」という校内研究を支えるものとして、生きる力の核となる、豊かな人間性の育成を重視し、全学年で実施する。

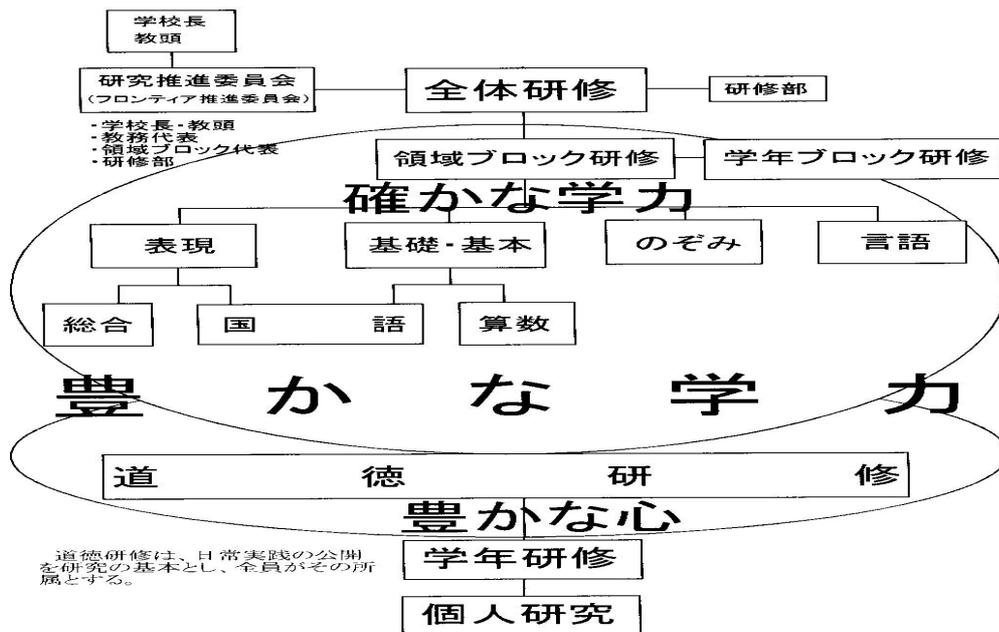
(2) 年次計画

平成15年度	<p>テーマ 豊かな学力を身につける『ひらかれた学習』へのアプローチ (研究の実践と定着)</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>(1) 一人一人の個に応じた指導のあり方を工夫しながら、基礎・基本を重視した確かな学力の定着と向上を図ることにより、子どもの学習の意欲を喚起し、学びがいを感じさせ、豊かな学力の育成を図ることができる。 (基礎・基本～国語・算数)</p> <p>(2) 教師が一人一人の子どものよさを認め、共感的な理解をするとともに、子ども相互が啓発し合い、表現力を高め合い、心をひらき合うことにより、自分のよさを発揮し、互いの立場を尊重してよりよく表現するようになる。 (表現～教科・道徳)</p> <p>(3) 一人一人の思いや願い、興味・関心に基づき、生活とかがわる単元を開発し、多様な体験的活動を重視した場面を設定することにより、多様な思考・判断・表現を生み、考えや思いを生き生きと表し、さまざまな考えを受け入れ、自らの考えを確かなものにする中で、自らの生き方を見つめることができるようになる。 (表現～総合)</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートのとめ方、発表の仕方、家庭学習などの発達段階を考えた学び方の開発 ・国語と算数において、自分の課題や興味・関心、理解の状況を選択し、学習を進めることができる教材・教具の開発 ・国語において、話し合い活動を位置付けた年間計画と目標の設定 ・日常的に取り組める話す力・聞く力・話し合う力を育てる活動の構想 ・話し合い活動ができる単元計画と話し合いの手順、方法の研究
--------	--

- (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善
 - ・国語と算数において、一人一人の理解の状況に応じた繰り返し指導の充実
 - ・国語と算数において、興味・関心別学習、課題別学習、習熟の程度に応じた指導等指導方法の工夫・改善
 - ・道徳性と表現力を養うための道徳授業の実践と指導方法の工夫
- (3) 児童の学力の評価を生かした指導の改善
 - ・漢字、読書、視写、音読・暗唱、計算などの日常的な取り組みの仕方
 - ・学力検査の結果や日常の学習活動の実態調査と分析を活用した授業づくり

平成16年度	<p>テーマ 豊かな学力を身につける『ひらかれた学習』へのアプローチ (研究の検証)</p> <p>研究の見通し(仮説) 平成15年度と同じ</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発 <ul style="list-style-type: none"> ・国語と算数において、発展的な学習や補充的な学習を進めるための教材・教具の開発 ・国語において、国語科の表現(音声言語)領域の実践と目標の検証 話し合い活動を位置付けた年間計画と目標の設定 ・日常的に取り組める話す力・聞く力・話し合う力を育てる活動の構想 ・話し合い活動ができる単元計画と話し合いの手順、方法の研究 (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・国語と算数において、一人一人の理解の状況に応じた繰り返し指導の充実 ・国語と算数において、興味・関心別学習、課題別学習、習熟の程度に応じた指導等指導方法の工夫・改善 ・言語事項を中心とした国語科の個に応じた指導の推進と検証 (3) 児童の学力の評価を生かした指導の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・学力検査の結果や日常の学習活動の実態調査と分析を活用した授業づくり ・国語科・算数科における評価計画と実践
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発
 - ・ 日常の授業や朝の活動の充実、補充的な学習の時間の設定により、学び方を習得してきている。自学自習や読書の習慣化が図られてきている。
- (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
 - ・ 国語と算数において、指導形態の工夫や習熟の程度に応じた指導の実施により、学習意欲と学力の向上が見られた。
 - ・ 国語において、音読活動や話し合い活動の意図的計画的な取り組みにより、論理的かつ明確に話すことができるようになってきている。
 - ・ 算数において、分数のかけ算(6年算数)の学習では、習熟の程度に応じた指導の実施前では、目標の実現状況がA(12名)、B(6名)、C(2名)だったのに対し、実施後はA(19名)、B(1名)、C(0名)と理解の状況が向上し、習熟の程度に応じたきめ細かい指導の効果が見られた。
- (3) 児童生徒の評価を生かした指導の改善
 - ・ 標準学力検査の結果を踏まえ、国語と算数の各観点別学習状況について、評価方法を工夫し、指導の改善を生かした。

2. 今後の課題

- (1) 単元の評価計画の緻密化と指導と評価の一体化を具体化した授業づくり
- (2) 日常的な授業に生きる補助簿の工夫
- (3) より子どもの実態に適した、学力向上につながる教材開発の蓄積(算数)
- (4) 全ての学習の基礎・基本となる国語科における言語事項を中心とした、子どもの理解の程度に応じた教材開発と実践

学力等把握のための学校としての取組

- 教研式標準学力検査の実施
 - 実施目的：客観的な学力の把握と今後の指導の資料とする。
 - 実施時期：1月下旬(今年度は1月29・30日)
 - 実施内容：3・5年生～国語・社会・算数・理科 4・6年生～国語・算数
 - 教科ごとの結果を、観点別に全国結果と比較分析し、指導の資料としている。
- アンケートの実施
 - 特に、習熟の程度に応じた指導をとらえた子どもや保護者の意識調査を行い、結果を分析し、今後の研究の推進の資料としている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年10月10日(金)第14回教育実践発表会開催
- 学校ホームページ(フロンティアスクール研究内容を含む)3月公開予定
- 平成16年10月1日(金)第15回教育実践発表会開催予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無